

# ぶどうの樹

2018.11  
NO. 23



写真：2018年6月2日 長崎平和大学集合写真 原爆殉難教え子と教師の像前にて

INDEX

特集1：8月9日平和祈念式典通訳体験記

特集2：杉澤 泰彦 西海市長 × 石川 昭仁 学長 対談

6 チャペル通信 - 休みを与えてくれる人 -

7 大学情報 - 故・木本雅康先生を偲ぶ -

8 大学情報 - 「語学の達人制度」ほか -

9 大学情報 - 学外連携の取り組み -

10 同窓会だより / 保護者会だより

11 寄付事業のお礼と報告

# 8月9日平和祈念式典通訳体験記

今年の長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典で、通訳として活躍した本学学生3名に、式典での経験を通して感じたことを伺いました。

**原田**：平和記念式典での通訳、お疲れさまでした。実際にやってみてどうだった？

**後藤**：私は夕食会で広島県の県議会議員長についてなのですが、話題は意外と平和についてだけではなくて、その国について、例えば日本だったら、観光が栄えているから、観光地はどこがいいとか、こういうのがあるとか。逆にどういう国の人が来るのか分かっていたら、その国の首都はどこなのかとか、その国についての予備知識を頭に入れておけたかなと思いました。

**若松**：私は式典でのアテンドと夕食会の二つに参加して、アテンドではウガンダの大使につかせて頂いたんですけど、最初に「あ、なまりがあるな」って感じました。でも、アイダホに留学していた時に、サウジアラビア人の友達が多く、彼らも訛りが強かったので、訛りに慣れていた分、あせらずにできたと思います。事前に原爆資料館とかに下見に行っていたんですけど、原爆資料館は広島で既に行っていて、残酷でいきたくないと言われて。そうか、色々なんだなと感じました。



左手前から時計回りに、黒田弓子さん、若松真貴さん、後藤里佳子さん、原田准教授

**黒田**：私の夕食会での担当は広島市長で、ちょうど広島で災害があった時だったんですね。それで「現状はどうですか？」とかいろんな人が来られて、一気に4～5人の方が喋られたりして、少しテンパったりして大変でした。アテンドはネパールの方で、やはり訛りが強くて。下調べはしていたのである程度は分かったんですけど、でもやはり何度も聞き返しました。聞き取れた単語から推測して「これでいいんですよね？」みたいな感じで、こちらから質問していました。

**後藤**：今回、アフリカ系の方で民族衣装を着た人と多く話したので、アフリカの人が多かったのかな、という気がしました。なので英語を母語にしている人の英語は、今回はあまり聞いていない気がします。

**原田**：そうなの？

**若松**：Youtubeとかでどんな訛りなのかを事前に見れるなら、見ておいた方がいいくらい。最初はすごく焦りました。



**黒田**：英語かな？って思うくらいでした。「インポータント」が「インポルタント」みたいな。慣れれば分かるんですけど、慣れない状態で、ワーっと言われると、本当にもう(笑)。

**原田**：普段みんなが授業で聞いている先生たちの英語は訛りはないからね。でも実際は訛りのない英語ってあまりなくて、普段英語に自信があったとしても、教室から離れると、全然わからなくなったりすることは多いよね。

**若松**：あの時は一人アフリカ出身の英語の先生がほしいなって思いました(笑)。

**黒田**：それか、ネパールの留学生とかせっかくいるので、彼らが出ている授業と一緒に出てみるのも勉強になるのかな、とも思います。英語のクラスには、基本英語が母語の先生と日本人の生徒しかいないので、全然なまりに対応できないというか。

## 事前の準備

**若松**：私は資料館とか出島に下見に行って、英語のパンフレットがあればもらって置いて、無料で入れる施設があるかチェックしました。あとは国際交流センターからもらった資料を見て、私は数字が英語でとっさに出てこなかったりすることがあったので、数字の言い方を調べたり、単語もわからないものは調べておきました。

**原田**：メモは実際に見る余裕あった？

**若松**：なかったです(笑)。でも調べていたことがとっさに出たこともあったので、よかったかなと。被爆者の人数を聞かれた時とかも、とっさには出てこなかったんですけど、「あ、調べてた内容だ」と思ったので、メモを確認してその場で答えることができました。

**黒田**：なまりが強いことが分かっていたので、どういふなまりがあるのかを調べたのと、事前にどこに行きたい、というメールをいただいていたので、グラバー園と原爆資料館と、あと出島について調べました。長崎にいながら、出島の歴史とかあまり知らなかったのですが、でも、資料にもすべてが書かれているわけではなくて。原爆が爆発した時の温度は何度あったのかとか、ゲストの方が原爆について細かいことまで関心を持たれていることには驚きまし



た。あとは、原爆資料館を回った時、写真に写っている人たちをみて「この人たち今はどうされているの？」と聞かれて、とっさに資料館の方に聞いてしまったり（笑）。

### 普段の勉強で役立ったこと

**黒田：**アテンドの時に特に思ったんですけど、英語って敬語がないってよく言われるんですけど、でもその場に応じた適切な単語だったりとか、pleaseだけではなくて、色々な丁寧さを表す表現とかがありますよね。でもあの時はずっとpleaseばかり使っていたなって。多分、自分が知らない間に命令口調になっていたりしたと思うので、もっといろいろな表現を知っていたらもっといいアテンドができたかなって思います。

**原田：**確かに、pleaseで丁寧になるって習うけど、基本命令文だから、Would youのような疑問文を使った方がいい場面もあるよね。とっさに英語の文は出てきた？

**黒田：**出てこない時の方が多かったです。ただ、みなさん理解したいという気持ちが強かったので、こちらが必死に説明すると、必死にくみ取ってくださって、ゆっくりでもいいので、まずは伝えようという気持ちでした。別の単語で言い換えたりとか、伝えるように、とにかくという感じで。

**原田：**別の単語で言い換えればいいのかというテクニックはどうやって身につけたの？

**黒田：**カンパシーションの授業でしょうか。ルイス先生の授業とかで、即興で「君はどう思う？」と聞かれて、とっさに何かを言わなければいけなかったりしたので。最初はすごい大変で、日本語ですら意見が浮かばないものを、英語ですればいいたろう、って。ただ、慣れてくると、とりあえず単語でも短文でも、言えば相手が拾ってくれるし、そこから自分も会話が広げられるようになって。なので、とっさに何か言わなければいけなくなっても、焦らなくなるので、落ち着いて考えて言えるようになる感じで。

**原田：**あと役に立ったなと思った授業はある？

**後藤：**ビジネス英語のペック先生の授業を去年の秋から取っています。もう一年前になるんですけど、初歩的な挨拶とか日常会話とか、あとははっきり言う、大きな声で言うとか、もごもご喋らないとか、そういうところは役に立ったかなと思いました。

### アテンドを通じた文化交流

**若松：**アテンド中に、教会に行ったんですけど、お参りしたいということで。お参りが終わった後に、30分くらい聖書の話をして。真剣に話して下さって、留学中とか外大でもキリスト教の授業があったので、それがすごく役立ったかなって。ウガンダの方は信仰心が強くて、国も宗教心が強い国みたいで、日本人は宗教にこだわらない方もいるじゃないですか。でもこだわる地域の人はこだわるんだなと思って。そこでも文化の違いというか、信仰の違いみたいなものをすごく感じました。

**黒田：**ネパールの大使をアテンドしたんですけど、宗教の関係で（ホテルの部屋で）お香を焚きたいと言われて、最初に「煙が」とか言い出すので、「何を言い出すんだろう？」と思っていたら、「宗教上の慣習でお香を焚きたいからホテルの人に聞いてくれない？」と言われて。でホテルからは部屋に香が付くから駄目だと言われて、それを伝えたいんですけど。そうしたら、宗教心が強い方だったので、「なんで」ってなって。その時はすごく困りました。日本の常識というか、次に使う人のことを考えて臭いがついたらだめというのを、どう伝えるかっていうのがすごく難しかったです。

**若松：**あと、待ち合わせをするときに、外国の大使の方は最初から握手を求めてきたり、すごく気さくな方だったんですけど、日本人の方は堅い感じがして。挨拶からして、しっかりした敬語で話されたりして、どちらもとてもしやすい方だったんですけど、距離感というか、そこがちょっと違うのかなと思いました。

**後藤：**日本人は自分の立場を考えたり、空気を読んだりするけど、外国人の方はそのあたりの壁を作らないというのはあると思います。

### 今後の展望

**後藤：**今回の経験で気づいたことは、相手の国のことを一つでも知っていると、それだけで「あ、知ってくれているんだ」という感情になるので、そういうことって、私は来年から商社に勤めるんですけど、ビジネストークの前に、「あなたの国のこういうところっていいよね」という会話から始めると、距離も縮まるきっかけになるので、その国のいい所を知ることは、すごく大事だなと思いました。

**若松：**もともと通訳とか翻訳に興味があったのですが、実際に経験してみて、言葉の壁や文化の違いだったりを感じて、英語だけではなくて、日本ももちろんなんですけど、色々な国のことを知りたいなと思うようになりました。通訳の中で、平和のことも聞かれたんですけど、それ以外の話題も結構聞かれたので、日本や長崎の文化や気候、政治について、また政治に関連した単語ももっと知りたいなと思いました。そういうことも、こういう場面に参加しないと知らなかったり、知りたいともあまり思わなかったから、政治とか、普段あまり使わない単語とかも、学びたいなと思いました。

**黒田：**実際に色々な地域の色々な人が使っている英語は、普段の教室で習っている英語とは違うな、というのは感じたので、もっと実際の英語の姿というか、実際の日常の現場で通用する英語を身に着けたいなと思いました。あとは、人といる時に、英語だけではなくて、相手に対する気の使い方というか、相手と良い関係を築いていくための気遣いって、慣れていないと難しいなと感じたので、英語の知識だけではなくて、その英語で相手と気持ちよくコミュニケーションがとれるスキルも身に着けたいなと思いました。

**原田：**お疲れ様でした。ありがとうございました。



(文責：現代英語学科 准教授 原田依子)

## ～ 杉澤 泰彦 西海市長 × 石川 昭仁 学長 対談 ～

2017年より西海市長を務められている杉澤泰彦さんは、長崎外国語短期大学の卒業生（1981年度卒・第31回生）でもあり、在学中は、当時短大講師であった同い年の石川昭仁学長と親交を深められた間柄でした。このたび、石川学長が西海市役所に杉澤市長を訪ね、昔の思い出話を花を咲かせつつ、「自治体や大学として取り組む平和の実現」に向けた意見交換を行いました。

—まずは杉澤市長在学中の思い出について伺います。長崎外国語短大に入学された経緯をお話いただけますか。

**杉澤泰彦西海市長（以下、杉澤）：**東京の大学を卒業後、会社勤めを経て地元の長崎に戻り、長崎市内でジャズ喫茶のマスターをしていたんですが、英語をもう一度勉強したいと思い立って長崎外国語短大に入学しました。当時は学生の殆どが女子で、クラスの男子は私一人でした。27歳で入学しましたから他の学生とは10歳近く年が離れており、皆の兄貴的な存在だったと思います。石川先生とは学年が一緒で、「先生と学生」というよりむしろ友達のようなお付き合いをさせていただきました。

**石川昭仁学長（以下、石川）：**当時私は長崎に来たばかりで、長崎のことがまだ良く分からなかった時期だったので、杉澤さんに街を案内してもらったり、一緒に飲みに行ったりと、良くしていただきました。杉澤さんの店にも数回招いていただいて。

**杉澤：**先生を自宅にお泊めしたこともあるんですよ。覚えていらっしゃるでしょうか？話し込んでいるうちに真夜中になってしまっていて、そのまま自宅にお招きしたんです。



写真左：杉澤泰彦西海市長、写真右：石川昭仁学長

—お話を伺っていると、お二人の間柄は「師弟関係」というより、学校の中で数少ない同年代の友人といった感じですね。では、石川学長から見た学生としての杉澤市長の印象は如何でしたか。

**石川：**年齢のせいもあって、非常に落ち着いた印象ですし、早稲田大学のご卒業ということもあってか、英語の成績も非常に優秀でしたね。勉強しないといけないことはあまりなかったんじゃないですか？

**杉澤：**いやいや、そんなことはありません。私は大卒ということで一般教養科目を免除していただいていたんですが、そのおかげで何とかやっていけたんだと思います。昼間に授業を受けて、その後夕方から夜中までずっと店で仕事をしていましたから、かなりハードな毎日でしたよ。

**石川：**そうでしたか。傍から見てみると、そんな素振りも見せずに余裕でこなしているように見えていましたよ。確か英語の教員免許を取得されましたよね？

**杉澤：**そうです。外短で教免を取って、卒業後に住吉で学習塾を始めたんです。

—石川学長は杉澤市長のご卒業後も定期的に連絡を取っていらっしゃったんでしょうか。

**石川：**学習塾を始められた後に、たまたま私の自宅近くに引っ越して来られたんです。その時はそれほど交流がなかったんですが、そもそも杉澤さんは西海市崎戸町のご出身で、お父様がそこで旅館を経営されていたりして、いつかそこにうちの学生を連れてキャンプかセミナー研修のようなものをやろうと約束していたんです。そしてようやく一昨年になって、うちの留学生を連れて訪ねて行き、美味しい魚をごちそうになったりして、長年の約束を果たせました。当時はまだ市長に就任される前でしたが、西海市議会の副議長としてご公務にお忙しそうでしたね。

—杉澤市長はご卒業後、外短もしくは長崎外国語大学の動向を追いかけていらっしゃいましたか。

**杉澤：**卒業後数年間は、当時外短に勤めていらっしゃった上地先生が私の学習塾を訪ねて来てくださって、よく飲みを誘って下さったりしていました。ほかに同窓生とも定期的に連絡を取り合ったりしていました。確か西村先生や山本先生が学長を務められて、その後しばらく母校の情報には接していなかったのですが、あるとき新聞が何かで石川先生が学長になられたのを知って、とても驚きましたね。

—今号の『ぶどうの樹』は“平和”をコンセプトとしています。本学院は、長崎が1945年の原爆により廃墟となった後、戦後の世界平和と人類の共存共栄実現のために、「外国語を用いて異なる国々の人々と対話し、異文化を理解し尊重する若者を養成」することを目指して設立されました。杉澤市長の在学中のご経験等から、本学のこういったコンセプトを感じ

させるエピソードがありましたらお聞かせください。

**杉澤**：在学中に一度、たくさんの外国人の前で英語で意見を述べるイベントがあったのですが、私はそのとき、1980年のモスクワ五輪を日本がボイコットしたことについての自分の意見を英語でスピーチしました。そのほか、外国人講師の方々や外国語でコミュニケーションを取る場は多かったですね。他の学生たちは、そういう外国人との対話に消極的な人も多かったんですが、それでも積極的にコミュニケーションを取っていた人たちは、その後の人生でも語学を活用した仕事に就き、成功しているような気がします。まさに「異なる国々の人々との対話の経験を通じて、異文化への理解や尊重を深めていく」。とても大事なことですね。

**石川**：当時は留学生もいなかったですし、外国人との対話といえば外国人講師が中心でしたからね。

**杉澤**：留学生ということであれば、対等な友だち関係ということでコミュニケーションも取りやすいのでしょうか、先生と学生という関係ですと、学生の方から積極的に動いていかないとコミュニケーションを取れないですから。そういう意味では今の在学生の皆さんは非常に恵まれた環境にいるのではないかと思いますし、語学力も私どもの頃に比べるとかなり伸ばしやすんじゃないでしょうか。

**石川**：本学は長崎市との包括連携協定事業の一環として、毎年8月9日の長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に在學生を通訳として派遣するなど、少しずつ平和に向けた取り組みに着手しています。平和祈念式典に参席される各国の大使の随行通訳や、式典後のレセプションでのフロア通訳などを学生が行っています。

**杉澤**：西海市においても、『第2次西海市総合計画』の前期基本計画に「学校での平和教育の推進」という目標を掲げており、やはり長崎県内でも特別な日である「8月9日」には学校での平和学習を行っています。また、語り部の方をお招きしての被爆体験談講話も実施していますが、高齢化に伴って語り部の方が少なくなり、全体的な取り組みの実施に支障を来しているというのが現実です。このほか、「学校の平和」という面では、生徒間の相互理解の促進といじめの撲滅などを目指した取り組みも進めています。子どもたちにとってはそれこそが「平和」の基本に据えられるべきものであり、学校現場や教育委員会の意見を聴きながら、もっと形式を工夫しながら推進していきたいと思っています。

**一現在の市長というお立場から、今後本学の更なる理念の追求に向けて「こういった取り組みがあると望ましい」といったご意見がございましたら、ぜひお聞かせください。**

**杉澤**：長崎市で行われているような事業を西海市においても行っていただければ、というのが私の希望です。西海市は市内に高等教育機関がなく、大学生との定期的な交流が難しい状況にあります。大学の長期休暇期間などに大学生と西海市の子どもたちとの交流事業が行われるといいですね。現在、各学校には外国人のALT（外国語指導助手）が配置されていますが、生徒たちが授業の外で英語と馴染む機会を何とか提供してあげたいと考えていますので。

**石川**：まずは本学の留学生と西海市の子どもたちとの交流会のようなものを夏休み中に企画するというのはどうでしょうか。目に見えるかたちでの交流のスタートとしては理想的ですし、室内で対面といった堅苦しい形式ではなくて、それぞれ西海市の美しい自然や美味しい食べ物といった特色を生かして、体験型のキャンプのようなものを一緒にやるのも面白いですね。

**杉澤**：そうですね。双方から意見を出し合って、興味を惹くような魅力的な企画にできるといいですね。また、昨今グローバル化が叫ばれて久しいですが、西海市にも外国人旅行者からの宿泊等の照会が増えてきている一方、こういったインバウンドの受入体制はまだまだ不十分です。今後はそれら多言語対応インフラの底上げが不可欠になってくるので、外大さんのお力をお借りできないか、ということは考えています。

**一最後に、地方公共団体もしくは高等教育機関として、平和の実現に向けてどのように今後向き合っていくべきかについて、お考えをお聞かせください。**

**杉澤**：ほとんどの人は“平和”という言葉から、核兵器廃絶や地域紛争の解決など、「国際平和」を連想すると思います。しかし先ほど「学校の平和」と申しましたが、それ以外にも「国内の平和」もしくは「地域の平和」などといった要素も含まれており、一面的には捉えられない問題です。国際平和に目を向ければ、国益というエゴを振りかざしたり、或いは宗教の違いが原因となる紛争が存在するなど、そこに見える排他性を乗り越えていくことは大きな課題になると思います。一方で国家の安全保障上の必要性を考えなければならないのはもちろんですが、それでも、若い人材の教育を担う地方公共団体として、或いは高等教育機関として、こういった排他性を取り除くためにやるべきことは多いのではないかと感じます。

**石川**：杉澤市長のおっしゃる通り、自治体であっても高等教育機関であっても、一気に世界平和を目指してやっていくというのは無理で、自治体なり、大学なりに、身の丈に合った平和の実現に向けた努力を重ねていく必要があると思います。国際紛争などは相手方に対する無理解、知識の欠如が引き起こしているという状況がありますので、本学が推進する国際交流などもそうですけど、お互いが色々な他国の人のことを十分に理解していくための地道な取り組みを続けていくしかないでしょう。そういった努力の積み重ねが、平和への礎を築いていくんだと思います。

**杉澤**：やはり「相互理解」というのがカギになってくるんでしょうね。一方で、先ほどの宗教など、簡単に壊すことのできない壁があるんだということを頭に入れながら、日本と地域の平和を守っていくという視点も必要になってくると思います。

**石川**：本学が行っている留学生のホームステイ事業や、様々な国際交流イベントへの参加を通じて、大学内のみならず、広く地域に対して異文化理解・相互理解の精神を広めていくということも、今後の高等教育機関が担う役割だと思っています。



(聞き手 編集：総務課 一宮啓祥)

# 「休みを与えてくれる人」

チェ・ヨンミン宣教師

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」

(マタイによる福音書 11章 28節)



皆さん、こんにちは。はじめに長崎外国語大学で賛美とメッセージの奉仕をする機会を与えてくださった、栗屋理事長をはじめ学校の皆様にご感謝を申し上げます。

さて、世の中には楽しい場所がたくさんあります。温泉・遊園地・居酒屋など、わたしたちを幸せにしてくれるように見えるところは多いです。しかしそこで時間を過ごして帰ってくると疲れます。このような場所がわたしたちの心に本当の喜びや満足を与えてくれることはなさそうです。

昨日の朝10時頃、長崎市内で、何人かの人たちが店の前で列になって並んでいる様子を車の窓から見かけました。まだ店が開いていないのに、あの人々はどのようにして並んで立っているのだろうと、ちょっと不思議な気がしました。店の看板を見ると、なんとそこはパチンコ屋でした。

聖書は、わたしたちが生きるこの世の中をこう定義しています。「この世に生きている人たちはすべて重荷を負っている。」その荷を背負う年数が長くなってきました。みんな疲れています。この世に生きるすべての人たちには本当の休みが必要なのです。

世の中で成功した人も、失敗した人も、お金持ちも、貧しい人も、知識が多い人も、少ない人も……、誰もが自分にとってあまりにも重い荷を背負って生きています。

ではわたしたちを圧迫している荷物とは何でしょうか？それは授業の単位かもしれませんし、それとも友達との関係や財政的な圧迫、あるいは未来に対する恐怖かもしれません。しかし最も大きな荷物は、死です。死と絶望です。

ではわたしたちはこれからどうすればいいのでしょうか？わたしたちに今できることが何かあるのでしょうか？

あります。それはイエス様に出会うことです。わたしたちは皆、イエス様の前に進まなければならないのです。神様に賛美の歌を歌ってみてください。人類最高の本である聖書を読んでみてください。そうすればあなたは神様と出会うことができます。そして神様に出会う時にわたしたちは本当の休息を得ることができるのです。

(2018年6月27日チャペルアワーから。翻訳：国際コミュニケーション学科 講師 きむゆ そん 金有善)



左から ノ・スヨンさん、チェ宣教師、イ・ジェビンさん

## 寄贈資料から知る、故木本雅康先生の側面 ～みなさんご存知でした？

木本雅康先生が亡くなった後、蔵書やCD等の多くを御遺族より、本学マルチメディアライブラリーに御寄贈いただいた。今年の1月末から3月にかけてライブラリー職員総出で研究室と御自宅に何度も伺い、蔵書の全体像を概観し、分類し、選択し、運搬し、整理し、現在も受入作業を続けている。10月1日時点で既に1,750点程の図書や音楽CD等を受け入れた。ライブラリー内に、歴史地理学の一分野から広がるコレクションが静かにできつつある。もっと冊数の多い寄贈はこれまでもあったが、それらは当然ながら寄贈者の意思により予め選り分けられ、更に他の研究者や他大学の図書館にも選り分けられ、いわばふるいに掛けられた後の寄贈であることが多かった。今回の木本先生の蔵書は、おそらくほぼ全て収集された形のままだと思われ、故人の研究と思考の道を辿れるかのようなきれいなコレクションだった。

御自宅マンションでは、生活空間としての部屋とは別に独立した3DKを本と音楽CDを収納するためだけに借りられていて、3つの部屋それぞれの四方の壁面は天井近くまでの書架で覆われ、全てにぎっしりと本と音楽CDとその他の紙資料等が収められていた。研究のための資料が大部分を占めていたと思われるのだが、樹状図のように思考が広がっていった様子が蔵書に表れ、思いもかけない本もあった。

木本先生は、学内の多くの方がご存知の通り、「古代道路」をテーマに研究されていた。全国各地の埋蔵文化財センターからの依頼で遺跡の発掘現場にも足を運ばれていたことを偲ばせる、各地の市町村史誌（主に古代編）や風土記、遺跡発掘調査報告書が数多くあった。研究対象の「道」は国内に留まらず、東アジアや、古代ローマの道やスペインの巡礼の道を辿るためのヨーロッパ各地の資料や、実際に現地を訪ねる際に利用されたと思われる言語の資料もあり、思考と行動の広がりや思いを巡らせることができる。かつて卒業生から、留学先のヨーロッパの国で木本先生にお会いした、と聞いていた記憶と繋がる資料でもあった。方々の「道」を訪ね、研究成果を幾冊もの著作にまとめられたエネルギーは、あの細いお身体のどこから発していたのだろうか。



寄贈資料の一部

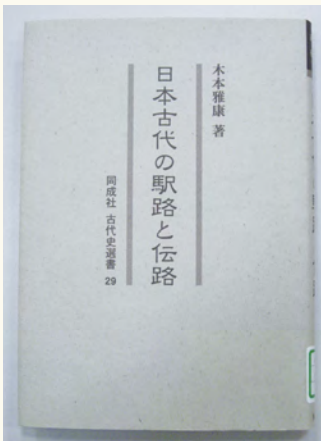
遺稿となった、『日本古代の駅路と伝路』は、他の研究者の編集協力を経て、同成社の古代史選書として6月に発行された。この本もまた御寄贈いただいた。

古代の道から万葉集に、というように歴史地理学と文学の分野を行き来されてもいた木本先生は、宮沢賢治の研究者でもあり、多くの関連する蔵書があったが、その殆どは御遺族とも懇意にされていた、宮沢賢治研究の仲間の方々に寄贈され、残念ながら本学には遺されていない。

クラシック音楽のCDも多く、特に朝比奈隆が指揮をした演奏のCDだけでも段ボール箱3箱分はあったが、他にも随分と多くの指揮者の演奏を聴き比べていらしたようで、クラシック音楽にも造詣が深かったことが見てとれた。

長く古代の道を旅し続けた木本先生は、今は未知の世界の道を旅されているところだろうか。ライブラリーの書架の間から紙コップを片手にふらりと現れても驚かないほどに木本先生の気配がライブラリーの蔵書に漂っている。

(マルチメディアライブラリー事務室 別所佐和子)



最後の著作



本学に所蔵がある著作



## 語学の達人制度について

各種語学検定試験に合格した学生を対象に「語学の達人」制度を設けて表彰しています。合格した各種語学検定試験の段階に応じて「学長奨励賞」と「学長特別奨励賞」とがあります。募集は春学期の4月下旬から5月中旬頃、秋学期は11月中旬から下旬頃に実施しています。また、2018年度卒業生を対象とした募集も行っています。受賞者には賞状の他、副賞として「学長奨励賞」に5千円分の図書カード、「学長特別奨励賞」に2万円分の図書カードを授与しています（2014年度～2018年度）。それぞれの語学検定における基準等、制度の詳細は「学生要覧」や教育支援課からのお知らせで確認できます。また別途単位認定制度もありますので「言語教育科目「EPT Credits」「IPT Credits」について」の項目や掲示を併せてご覧ください（それぞれ個別に申請が必要です）。いずれも学生の語学目標達成の動機づけを目的としておりますので積極的にご利用ください。

2017年度は、学長奨励賞を25名に、学長特別奨励賞を21名に授与しました。

|           | 検定名           | 学長奨励賞                       | 学長特別奨励賞                                |
|-----------|---------------|-----------------------------|--|
| 英 語       | 英検            | 準1級                         | 1級                                     |
|           | TOEIC (IPを含む) | 680                         | 800                                    |
|           | TOEFL (iBT)   | 73                          | 101                                    |
|           | TOEFL (PBT)   | 533                         | 606                                    |
|           | IELTS         | 6.0                         | 8.0                                    |
| 日 本 語     | 日本語能力試験       | N1合格 (150点以上)               | N1合格 (165点以上)                          |
| ド イ ツ 語   | 独検            | 2級                          | 準1級                                    |
|           | ZD            | B 1                         | —                                      |
|           | ZDfB/Daf      | —                           | B 2                                    |
|           | Test DaF      | —                           | B 2                                    |
| フ ラ ン ス 語 | 仏検            | 2級                          | 準1級                                    |
|           | DELF          | B 1                         | B 2                                    |
| 中 国 語     | 中検            | 2級                          | 準1級                                    |
|           | HSK<br>漢語水平考試 | 筆記試験：5級合格<br>(180点以上240点未満) | 筆記試験：5級合格 (240点以上)<br>または6級合格 (180点以上) |
| 韓 国 語     | 韓国語能力試験       | 5級                          | 6級                                     |
|           | ハングル能力試験      | 2級                          | 1級                                     |

## ～社会人の皆様へ～

### 履修証明プログラム

2007(平成19)年の学校教育法の改正（法第105条等）により、社会人等の学生以外の方を対象とした一定のまとまりのある学習プログラム（履修証明プログラム）を開設し、その修了者に対して法に基づく履修証明書を交付できるようになりました。

当制度は、単位や学位が授与されるものではありませんが、修了者に対しては大学等により学修の質が保証される新たな教育プログラムです。（※参考として、2018年度プログラムは以下の通りです）

#### (2018年度 募集内容)

- (1) 提供プログラム：「初中級韓国語」
- (2) 出願資格：「高等学校を卒業した者」など所定の条件を満たす方（詳細はお問い合わせください）
- (3) 出願書類：履修願書(本学所定用紙)、履歴書、最終出身学校の卒業証明書
- (4) 修了要件：プログラムにおいて最低120時間以上授業に出席し全科目の試験に合格した場合に「履修証明書」を交付します。
- (5) 留 意 点：
  - ・同一年度内に1つのプログラムのみ受講でき、これ以外の科目履修はできません。
  - ・履修証明の修了の要件は、当該年度内に満たすものとします。

### 長期履修制度

通常の期間（4年間）での修学が困難な事情にある（社会人及び家事従事者など）方に、修業年限を超えて計画的な履修を認める制度もあります。

**いずれについても、詳細は本学HPをご覧くださいか、下記までお問い合わせください。**

**【お問い合わせ先】** 長崎外国語大学(095-840-2000) 履修証明プログラム：教育支援課(kyoumu@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp)  
長期履修制度：入試広報課(kouhou@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp)



## 長崎県立対馬高等学校と高大連携協定を締結いたしました

このたび本学は教育の充実と進展をめざし、より一層の連携を図ることを目的として長崎県立対馬高等学校と高大連携協定を締結しました。2018年8月10日に本学で行われた調印式には対馬高等学校の立木貴文校長が来学し、「大学と連携し高等学校だけでは得ることのできない教育内容を生徒に提供したい」と述べ、石川昭仁学長は「対馬高等学校は韓国語・韓国文化を専門的に学べる特色ある高等学校。本学との連携により生徒が対馬をフィールドに学習できるよう協力していきたい」と挨拶し、協定書への調印を行いました。今後、本学教員による対馬高等学校での出張講義や、本学と対馬高等学校を遠隔教育システムで結び、生徒の語学の運用能力やコミュニケーション能力を高めるためのアドバイス等を行うなど、さまざまな高大連携事業を展開します。



## 五島手延べうどん試食会が開催されました

7月10日(火)、本学コミュニティラウンジにて「五島手延べうどん学内試食会」が開催されました。本試食会は、本年3月23日に新上五島町・株式会社十八銀行・本学の三者間で締結された県内私大初の産官学三者包括連携協定に基づく取り組みの一環であり、新上五島町の特産品の一つである五島手延べうどんの販路拡大へ協力するため、まずは本学学生及び教職員へその美味しさを知ってもらおうという企画でした。

五島手延べうどんは、同じく五島の特産品である食用椿油を塗布しており、麺は細いのですがつやとコシがあり、喉ごしの良い食感が特徴で、日本三大うどんの一つとも言われています。

当日は、五島手延べうどん協同組合の方々が来学されて、かけうどんを調理して頂き、株式会社十八銀行の方々と一緒に法被姿で振る舞って頂きました。

試食数は、予定の300杯を大きく上回る400杯超となり、留学生からも「美味しい」「珍しい」「レシピを調べてみる」等の声が多々上がっていました。また、テレビ局と新聞社の取材もあり、会場は大変な賑わいでした。

今後も、本学が社会貢献への数々の情報発信基地となるよう努めてまいります。



## ● 同窓会だより ●

### 新会長挨拶



日本では各地で、地球温暖化による台風、水害、また地震等自然災害が起きていますが、同窓会会員の皆様におかれましてはお変わりございませんか。被害に遭われました方には、心よりお見舞い申し上げます。

さて、同窓会に於きましては、この度、前会長の平野大壽様ひらの だいとしが一身上の都合により9月7日付で辞任されました。実に6年有余を同窓会活動にご尽力頂き、感謝申し上げます。

次期会長ですが、同じく9月7日付で副会長でした私、短大2部14回生の岩田耕作いわた こうさくが役員理事會に於いて任命されました。今後は、卒業生の皆様のご意見を取り入れながら、微力ながら大学や同窓会の発展に寄与していきたいと考えております。

尚、名誉会長の吉田親生氏や副会長の中原裕子氏（短大25回生）、同じく副会長の野田亜希子氏（短大49回生）、同窓会事務局長の出口すず美氏（短大22回生）を中心に他役員、代議員の皆様方と新体制で進めて参ります。

どうか同窓会会員の皆様、ご協力の程を切にお願い申し上げ、重ねて近況を多数お寄せ下さいませます様お願い致します。簡単でございますが、会長就任の挨拶とさせていただきます。

2018(平成30)年11月1日

長崎外国語大学同窓会会長 岩田 耕作

初秋の候、皆様 益々ご多忙のこととご拝察いたします。

今年 6月10日に第3回福岡・大分支部ブロック同窓会を福岡天神テルラにて開催いたしました。母校より粟屋理事長様、石川学長、阿南先生にもお越し頂き、遠方からもご出席いただき嬉しく思いました。

現在の大学の盛況なご様子を伺い、懐かしいお話しに花が咲き、和やかに同窓会を終了することができました。

次回開催につきましては、未定ですが、予定が決まりましたら、ぶどうの樹にてお知らせいたします。

その際には、是非ご参集下さい。

(長崎外国語大学同窓会福岡・大分支部ブロック 支部長 富永加代子)



## ● 保護者会だより ●

### 外語祭の出店ブースに歴代の会長さんたちをお招きしました！

長崎外国語大学保護者会では、今年も11月3日(土)～4日(日)の外語祭で「外大オリジナルTシャツ」の販売を行いました。当日は、これまで保護者会を支えてくださった歴代の会長の皆様（元会長・佐藤栄磨様、元会長・森田美保子様、前会長・甲斐一美様）をお招きし、現役員との久しぶりの再会を果たしました。Tシャツの出店の盛況ぶりや、多くの役員が販売に積極的に参加して学生さんと触れ合っている様子を見ていただくことで、外大に保護者会の活動がしっかりと根付いていることを実感し、ご安心いただけたのではないのでしょうか。



森田さん(後列左から3人目)、甲斐さん(後列中央)を囲んで

今年の外語祭は2日間とも好天に恵まれ、学生さんたちが模擬店の中から元気な声で呼びかけたり、舞台上で堂々とパフォーマンスを披露したりする、いつもと変わらぬ姿を見ることができました。保護者会では今後も物心両面から、勉学に、課外活動に励む学生さんたちを見守り、応援していきたいと思っております！



佐藤さん(右から2人目)と娘さん(右端)、甲斐さん(左から3人目)と一緒に

(文責：長崎外国語大学保護者会理事会)

## 教育研究の整備に関わる寄付事業のお礼と報告

平成27年4月から開始いたしました「教育研究の整備に関わる寄付事業」は平成30年9月末現在で485件、21,982,870円（平成30年4月1日～平成30年9月30日：73件、3,257,000円）のご寄付を賜り、ご支援をいただきました同窓会、保護者会、取引先、在学生保護者を始めとした多くの皆さまに深く感謝申し上げます。

なお、皆様から賜りました寄付の内から9,865,419円については、平成30年度上期に教育環境整備の一環としての実施いたしましたメディアセンター外壁改修工事および校舎整備関連工事の一部に充当させていただきました。

皆様の温かいご支援にお応えすべく、教育環境の整備のために鋭意努力をして参る所存でございますので、今後とも本事業の趣旨にご理解とご協力をお願い申し上げます。



寄付者ご芳名一覧 平成30年4月～平成30年9月ご寄付分 たくさんの温かいご支援ありがとうございました

(敬称略)

### 個人の部

|        |        |       |        |        |       |        |
|--------|--------|-------|--------|--------|-------|--------|
| 池内 克重  | 川原 仁幸  | 佐藤 栄磨 | 出口 すづ美 | 中村 弘美  | 藤本 勝市 | 森谷 和一郎 |
| 石井 真紀子 | 岸川 善彦  | 菅原 浩司 | 照喜名 守  | 西倉 雅宏  | 松澤 善裕 | 山下 義広  |
| 一宮 啓祥  | 木原 弘子  | 孫 承言  | 道崎 満寿男 | 羽仁 千秋  | 松田 明大 | 吉岡 学   |
| 植木 啓子  | 空閑 次男  | 高木 泰文 | 唐原 こずえ | 春海 賢一  | 宮崎 昭義 | 劉 思佳   |
| 織原 みつる | 黒田 喜三男 | 玉置 佳子 | 鳥貴 政明  | 平下 美登里 | 森 彩   | 渡辺 ひろみ |
| 片山 美千恵 | 桑原 孫市  | 知名 清  | 中溝 悦美  | 平野 和香子 | 森 美香子 |        |

### 法人の部

|                 |                  |                   |               |
|-----------------|------------------|-------------------|---------------|
| アダチ産業株式会社       | 株式会社サーブネット       | 株式会社西九州エレベーターサービス | ほんだ商店         |
| 株式会社稲崎産業        | 株式会社松栄設備         | ホテルニュー長崎          | 松尾建設株式会社 長崎支店 |
| 扇精光ソリューションズ株式会社 | 株式会社セキュリティハウスセント | 林兼石油株式会社長崎支店      | 株式会社森美工務店     |
| 九州印刷株式会社        | 長崎外国語大学ビジネス株式会社  | 星野管工設備株式会社        | 有限会社ランカードコム   |
| 株式会社クリーン・マット    | 株式会社長崎消毒社        | 株式会社ほんだコーポレーション   |               |

## 新長崎学研究に関わる寄付事業のお礼と報告

平成28年4月から開始いたしました「新長崎学研究に関わる寄付事業」は平成30年9月末現在で44件、10,289,000円（平成30年4月1日～平成30年9月30日：8件、1,140,000円）のご寄付を賜り、ご支援をいただきました多くの皆さまに深く感謝申し上げます。

現在、長崎で育まれてきた国際理解や平和などに関する見識を学問的に位置付け、国際協力活動への参画に役立つグローバル人材の育成実現を目的として設立した「新長崎学研究センター（平成28年4月1日）」が掲げる三本柱、即ち①外国語教育方法の研究、②近代国家「明治」の養父フルベッキ博士研究、③長崎ブランドとしての新観光政策・戦略研究をいずれも未来からの視点から研究推進しています。

今後ともグローバル人材の育成という本事業の趣旨にご理解とご協力をお願い申し上げます。

寄付者ご芳名一覧 平成30年4月～平成30年9月ご寄付分 たくさんの温かいご支援ありがとうございました

(敬称略)

### 個人の部

粟屋 曠 川原 仁幸 桑原 伸良 末光 進 辻本 義典 溝田 勉

### 法人の部

株式会社メモリード

## 寄付に係る税金（所得税・住民税）の優遇制度について

寄付をされると次の要領で税金が戻ってきます。詳しくは、法人事務局財務課までお問い合わせください。

**個人** 寄付金が2千円を超える場合は、超えた金額に40%を乗じた金額が税額控除されます。【(注)：寄付金額は年間総所得金額の40%、税額控除は所得税額の25%がそれぞれ限度額となります。】

地方自治体が条例指定している場合は、住民税についても寄付金控除が適用されます

※各自治体の条例指定の有無につきましては、各自治体によって異なりますので、ホームページ等でご確認ください。また、直接自治体へお問い合わせください。

**法人** 受配者指定寄付金によって、日本私立学校振興・共済事業団を通じて寄付していただきますと、法人税法上、その寄付金を全額損金へ算入できます。【事前の手続きが必要ですので、ご説明をいたしますので寄付の際は大学にお申し出ください。】

### ご寄付のお申し込みについて

お電話またはメールで、ご住所、お名前をお知らせください。  
法人事務局よりご説明および必要書類をお送りいたします。

お問い合わせ先

学校法人長崎学院 長崎外国語大学 法人事務局 財務課 (担当：森脇)  
Tel : 095-840-2003 (法人財務課直通) Email : keiri@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp



アメリカ・ウィスコンシン州出身で、2018年春学期短期留学プログラムで来日したウィットテイカー アビゲイルさん(左から2番目)から本学に、千羽鶴が送られました。長崎滞在中の個人的なプロジェクトとして、お友だちのコーコラン サマンサさん(アメリカ・ウィスコンシン州出身、右から2番目)と共に千羽鶴を完成させました。ウィットテイカーさんは、千羽鶴を折り続け広島の前爆の後遺症で亡くなった佐々木禎子さんの物語をアメリカの学校で教材として読み、感銘を受けたそうです。